

D-4 幼児のウ歯に関するアンケート調査成績

東京学芸大 宇賀神フク
井上 義朗
笹川 晴子
○山本紀久子

1. 近年高度成長経済に伴なう生活環境，食生活の変化により，乳幼児期のウ歯発生は，ますます早傾している現況から，乳歯の重要性にかんがみ，幼児教育との関連において，その予防と治療は必要かくべからざるものと考えられる。今回，私共は，幼児のウ歯の実態を知るべく，アンケートによる調査を実施した。

2,3. 都下の4幼稚園及び神津島の某保育園の幼児(3~5才)853名に対してアンケートによる調査を行った。回収率は70.7%であり，この603名についての調査結果をまとめた。

ウ歯の発生状態は各年令層とも，そのほとんどに認められ，3才時に治療を受けているものが多い。都下の幼稚園と島の保育園との地域差に有意性は認められず，またウ歯と甘味料及び歯みがきとの関連性は，特に認められなかった。